

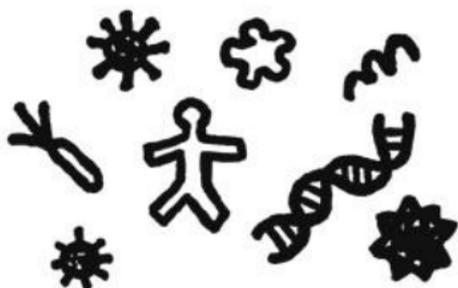
がんと人類は、周囲の環境を破壊しながら増殖を続ける点で似ています。がん細胞は患者の栄養分を横取りしながら増殖を続け、患部が手狭になると、別の臓器に転移しながら、ひたすらその数を増やしていきます。

人類も増えつづけています。わが国は少子化に悩んでいます。ですが、世界的には人口爆発が進んでおり、現在の世界人口は77億人を超えています。私が生まれた1960年には約30億人でしたから、この60年で2・5倍以上に増えたこととなります。

世界の人口増加は長い間、きわめて緩やかなものでした。しかし、18世紀の産業革命以降に増加のペースが加速

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

「環境を破壊し増殖」のツケ

る日本でも、東京圏の人口は増え続けており、日本人の3割近くがここに密集して生活しています。

こうした人口爆発と都市での人口密集、さらには急速に進んだグローバリゼーションによる地球規模の人の移動が、今回のコロナウイルスのまん延の背景にあることは明らかでしょう。

がんによる死亡は、栄養失調とそれに伴う炎症が原因だといえます。

人間も化石燃料を消費しながら人口を爆発的に増やし、母なる大地である地球の環境を悪化させています。

新型コロナウイルスの感染源はコウモリと考えられています。環境変化で、野生動物が本来の居場所を失い、人間との距離が近くなったことも動物からヒトへの感染ルートができる一因だと思います。

今回のパンデミックが終息しても、現代文明の急所を別のウイルスが狙う可能性もあります。感染症との長い闘いを覚悟する必要があるかもしれません。

(東京大学病院准教授)

しました。そして、20世紀に入ると人口は爆発的に増え始めました。国連の推定では19世紀末におよそ16億人だった世界の人口は20世紀半ばの50

年におよそ25億人となり、20世紀末にはおよそ60億人にまで急増、特に第2次世界大戦後の増加が顕著です。そして、今世紀中に100億を突破するとの予測もあります。

人口減少が問題となっていて、がんは自分が生まれた患者の体の中でしか生きられない存在ですが、自分の増殖のために患者の栄養を奪いつくしてしまいます。末期のがん患者が痩せるのはこのためで、